

平成 30 年度 経営改善計画ヒアリング 計画・取組状況とヒアリング時の特記事項 <中途退学者の防止>

今後の計画（3年間）	30年度の具体的取り組み・タイムスケジュール	ヒアリング時の特記
<p><学生課></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆昨年から実施しているサイボウズへの学生の状況及び指導状況を入力し、同コース内での情報共有を図る。 ◆例年実施している1,2年生への面談を余裕を持たせるため少し前倒しで実施する。（後期講義開始後速やかに） ◆連続3回以上の欠席者についてそれぞれの学生が抱えている問題点を整理し、早期に学生の問題解決、あるいは改善を図る。 	<p><学生課></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学生専門委員会にて随時、入力の要請を行う。 ◆個人面談を前倒しで行う（10月～11月） ◆学生生活支援センターから一人暮らしの1,2年生（含む寮生）への電話を5月、6月に実施した。 ◆教務課との連携、内容により学生生活支援センター、学習支援センター、保健センターとの連携（随時） 	<p><学生課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一昨年28、昨年44名。一時的に休学したが結局辞めた ・学生の満足度をあげる ・授業料未納は5～6名（平均的） ・サイボウズを活用し、早めに察知する ・退学するパターンとして、学内で孤立学内アルバイトなど参加させる仕込みが必要
<p>コース等の取組</p>		
<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆入学時のフォーラム旅行前に学生の状況を把握し、フォーラム旅行において対策を実施する。 ◆2年以上においては、講義の出席や理解度を各教員が把握し、前期・後期のオリエンテーション時に面談を行い、退学防止に努める。また、父母懇親会において出席状況や理解度を報告し、学生の状態に応じた進捗を理解してもらうよう努める。 	<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆1年生においては、不登校ぎみの問題ある学生への学年担当を中心としたインタビューの実施や電話による状況把握に努める。 	<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年で30単位取っていない学生と面接 ・転コースもあることを説明し、辞めるのを減らす
<p><建築></p> <p>（平成30年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学生状況の把握と早期対応 <p>（平成31年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学生状況の把握と早期対応 <p>（平成32年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学生状況の把握と早期対応 	<p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学生状況の情報をコース内で共有化（適宜） ・教室会議（毎週水曜日に実施）やコース内のメールで、欠席が続く学生状況を共有化 ・授業等の機会を見つけて気がかりな学生には声掛けを実施 ◆早期に学生と面談を実施（適宜） ・心配な学生については、早めに面談（状況に応じて保護者を含む）を実施して指導 ◆入学試験の面接では授業への出席の重要性を強調して学習意欲を確認（9月～3月） ・AO入試、推薦入試の面接時には、授業に休まず出席するかを念押しして確認 	<p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・附高だから退学が多いわけではない ・夜の仕事をやる子が多い ・経済的な問題。サッカー部とアルバイトで疲れ果てている ・海星、南山などグループでかたまり、その他（五島など）孤独感
<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆昨年度は3名(4.3%)で、一昨年度よりは減ったが芳しくない。 <p>主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年前期で不登校となった学生はほぼ確実と言ってよい程後年退学に繋がるのでこれをなんとかして阻止する。 ・1年後期の成績と卒業時の成績には非常に高い相関があることが知られており、1年時の教育が重要であることから、田中・清山らは一年時科目(電子工学基礎等)において、ノートの取り方の徹底指導、一人一人の個別カウンセリング等を行っている(他コースの学生も含めて)。 	<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆素早い行動・両親を交えた面談をし、心身の問題が見られる場合はカウンセリングを強く勧める。本年既に実例があり、カウンセリング・病院の紹介等まで保健室と協調して行うことができた。 ◆田中・清山らの試みは今後も継続していく。 	<p><電気></p>
<p><知能></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆1年 ホームシック→精神的に不安定。不本意？ 1年 不本意入学→他大学受験。 1年 不本意入学→勉強意欲喪失。深夜までバイト。 2年 経済的困難→授業料未納。 2年 精神的な病気。33+2単位修得。4割欠席。 2年 真面目で単位修得状況も良好。経済的な理由。 3年 深夜釣りに熱中。講義に出られなく単位が修得できない。 4年 単位取れない→卒研未着手。経済的に続けられない。 5年 単位取れず→勉強意欲喪失。経済的に続けられない。 5年 精神的な病気。これ以上は経済的に続けられない。 6年 大学に来られない。あと卒研だけ。精神的な問題。 ◆11件の内、純粋に経済的な理由が2件で、1年生は不本意入学から勉強意欲を保てず最初から大学に来ることもなく退学していった。留年生や4年生の4名は成績不良で卒業要件を満たせず留年が確定した学生たちで、続けていくには経済的に厳しいため卒業を諦めている。 	<p><知能></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学生生活支援センターや保健センターとも連携し、気になる学生の保護者には随時電話や面談で連絡を取り合い、退学者の防止に取り組むしかないと考えている。 ◆奨学金が停止され、授業料や生活費が払えずに退学していった学生もいる。学費を稼ぐためにアルバイトに専念しようと休学している“退学予備軍”も何人かいる。2年前のヒアリングで過年度生に対する学費の減免措置の検討をお願いし、昨年度は学生委員会や教授会でも議論されたが実施するところまで進展しなかった。これが実現すればかなりの退学防止効果が期待できると考えている。 ◆入学してくる学生の学力低下が問題となる一方、単位認定や卒業要件の厳格化が求められ、なかなか4年間でちゃんと卒業させることが難しい学生が増えてきた。そのような学生たちに対しては、経済的負担をあまりかけずに4年を越える学修計画を提案できるような仕組みがあっても良いように思う。 	<p><知能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・過年度生は学力が低い、あるいは経済的な学生 ・4年間で卒業させるのは難しい。6年計画など ・経済的なこともあり、アルバイトで勉強に集中できない学生もいる ・

<マネジメント>

◆本コースの学生指導は、基本的にゼミ担当が担っている(1年次生については、分担)。また、原則として学期の最初と最後には学生面談を行い、その結果をAAにアップすることになっていたが、面談は実施してもAAへのアップが徹底されていなかった。面談では、ポートフォリオA(学期始め用)とポートフォリオB(学期末用)を用いて実施している。中途退学者が増加する傾向が見えだしているため、問題を抱えていそうな学生には、早めに接触する。また、退学理由の中で、勉学意欲の喪失が大きいので、それにも備えた授業内容を検討する。

◆右表は、直近6年の本コースと旧経営情報学科の合計の退学者数である(H25までは旧経営情報学科のみ)。旧経営情報学科はH30年度に、在籍者0となった。H26,27には少なくなった退学者が再び増えだす傾向にある。

年度	退学者数
H24	6
H25	4
H26	3
H27	3
H28	5
H29	6

◆本コースでの学生指導は、基本的にゼミ担当が担っている(1年生については分担)。本コースでは学生面談を2回/学期(H25年度以前は1回/学期)実施しているが、退学者の殆どがこの学生面談を指定期日に受けていない。そこで、特別に呼び出したり、必要に応じて保護者に連絡を取ったりしていた。また、保護者懇談会にも参加を促す手紙を保護者宛に出して、保護者との相談行ってきた。また、退学の実質的な理由としては、勉学意欲の喪失が最も多い。勉学意欲の喪失から就職に目を向ける者、勉学の喪失によって授業に来なくなり授業料が振り込まれない者がいる。そのためにも早い時期での学生面談が必要になる。

◆実際、そのような対応で早い時期に面談したことで、退学せずに勉学を続けている学生もいる一方で、学生本人や保護者ともなかなか連絡がつかず、退学に至ったケースも少なくない。

◆また、勉学意欲の喪失が多い原因として、入学時点での勉学意欲の低さもあげられるだろう。入学時のアンケートには、〇〇を勉強したいなどと回答するが、勉学意欲が低いと思われる学生は確実に何人かいる。

<生命>

◆フィールドワークやNIASプロジェクトを活用し、学年内のつながり、学年間のつながりづくりを学生らによってできるようにする。
◆個々の学生が考える楽しさを理解するスキルをつける。
◆関係部署と協力し早めの休学と復学に向けた支援体制を構築する。

<船舶>

<マネジメント>

◆2018年度の本コースの学生指導の状況は以下の通り。
4月下：全学年の学生に対するポートフォリオAによる面談。
6月上：問題を抱えていそうな学生の保護者へ保護者懇談会への出席を促す手紙を送付。
これ以外にも、ゼミで気になる学生に対して、個別に対応している。その情報は、コース会議で共有している。今後の大きな予定は以下の通り。
7月下：全学年の学生に対するポートフォリオBによる面談。
8月下：問題を抱えていそうな学生の保護者へ保護者懇談会への出席を促す手紙を送付。
10月上：全学年の学生に対するポートフォリオAによる面談。
11月下：全学年の学生に対するポートフォリオBによる面談。

◆入学時点で勉学意欲が低かった学生に対しても、コースで学ぶ内容やその先、さらにはそれらの面白さを早い時期に見せる事に努める。そのために、1年前期の概論科目の内容を来年度から変更する。また、今年度より、Excelを用いた統計処理や現場での課題発見と解決を意識した授業内容への転換を進めている。

◆学生面談を含む学生指導はこれまで通りとし、引き続き学生の状況把握や情報共有に努める。

<生命>

◆1年生に対して学生の資質の把握を前期中に行う。(保護者面談会に間に合わせる)
◆就学状況の常時把握と早めの声掛けをする。

※退学者状況 2015(2名)、2016(1名)、2017(5名)
※帰国して戻ってこなかった留学生1名
※精神的な不調による退学者4名
※大学での学びに興味が無い3名
※休学者2名(理由不明1名、精神的な不調1名)
※気掛かりな学生3名(留学生1名、通学できない2名)

<船舶>

<マネジメント>

<生命>

<船舶>

・学生1~2名は、自宅引き籠り、ポツポツ登校。自宅訪問など実施するが1~2名の退学はしようがない
・1度、退学すると言いだめると引きとめるのは難しい